

REDO ログ・ファイルのステータス（現在使用中）の確認 REDO ログ・ファイルのグループ構成と物理ファイル名の表示

```
SELECT VL.GROUP# || ' ' || VL.BYTES || ' ' || VL.ARCHIVED || ' ' ||  
       || VL.STATUS || ' ' || VLF.STATUS || ' ' || VLF.MEMBER  
REDOLOG_INFO  
FROM v$log VL, v$logfile VLF  
WHERE VL.GROUP# = VLF.GROUP# ;
```

REDOLOG_INFO

```
-----  
1  20971520 NO CURRENT /opt/oracle/oradata/ORCL/log/redo01.log  
2  20971520 YES INACTIVE /opt/oracle/oradata/ORCL/log/redo02.log  
3  20971520 YES INACTIVE /opt/oracle/oradata/ORCL/log/redo03.log
```

REDO ログ・ファイルとのバッファ・サイズ設定

Redo ログ・バッファのサイズを大きくすると、Redo ログ・バッファの内容を一度のタイミングで大量に書込めるので、I/Oの発生頻度を抑えられる

初期化パラメータ（REDO ログ・ファイルとのバッファ・サイズ設定）
LOG_BUFFER n

REDO ログ・ファイルのサイズ見積りとサイズ設定

Redo ログ・ファイルのサイズを大きくすると、ログ・スイッチの頻度を下げられる
ログ・スイッチの頻度は、1 時間間隔を目安に考え、これに合わせた Redo ログ・ファイルのサイズを決定する

【サイズ見積り】

```
SELECT NAME , VALUE FROM v$sysstat  
WHERE NAME = 'redo size' ;
```

この SQL 文を 2 回実行して、その前後の差が、Redo ログ・エントリの大きさです
これを基に、1 時間当たりの Redo ログ・エントリの大きさを計算します

実行例)

1 回目	NAME	VALUE
10 : 03	-----	-----
	redo size	40234548
2 回目	NAME	VALUE
10 : 05	-----	-----
	redo size	42867896

— 計算方法—

ログ・スイッチを 6 0 分間隔に設定したい場合の

REDO ログ・ファイルのファイル・サイズ

$$\frac{(\text{2 回目の Value 値} - \text{1 回目の Value 値})}{(\text{2 回目の時刻} - \text{1 回目の時刻})} \times 60 \text{ 分}$$

【サイズ変更方法】

作成済みの REDO ログ・グループおよび、ファイルに対しては、容量変更できない
よって、新規に必要なサイズの REDO ログ・グループを作成した後、不要になったサイズの REDO ログ・グループを削除する